

第4期 中期活動計画の策定について

2017年度は、現行の第3期中期活動計画(2013年4月～2018年3月：運営委 39-3 ⑤)の最終年度にあたり、今年度末までに次期中期活動計画を策定することになっている。エコマーク事業における中期活動計画は、策定時より今後5年間で目指すべき、重点をおいて活動を行う方針をステークホルダーの方々にお示しすることを目的としている。そして、中期活動計画で設定した取組方針をもとに、年度ごとの事業計画にブレークダウンして事業を進めている。

中期活動計画の策定に関しては、従前の進め方を踏まえ、まず現行の中期活動計画の実績検証および総括を行い、そこから次期中期活動計画の骨子・方針案を固めていくことになるが、2017年3月に開催された第38回運営委員会において、数値的な検証を実施する必要があるとの御指摘を受け、運営委 39-3③にて参考資料(データ)を示した。

中期活動計画の策定のステップごとの検討事項とスケジュールは、次のとおりであり、本日の運営委員会では、ステップ①と②の事務局案を審議いただきたい。

- ステップ① 第3期中期活動計画の実績検証および総括を通じた課題の整理等
- ステップ② 次期中期活動計画の骨子（テーマ、方針、重点課題）の設定
- ステップ③ 中期活動計画の草案の作成
- ステップ④ 中期活動計画の策定

スケジュール

日程	検討場所	検討項目
2017年7月12日	企画戦略委員会(1)	①②事務局案の審議→御意見等反映
2017年9月28日	運営委員会(1)	検討経過の報告と①②事務局案の審議→御意見等反映
2017年12月頃	企画戦略委員会(2)	③中期活動計画の草案の検討→御意見等反映
2018年3月	運営委員会(2)	④中期活動計画の策定（とりまとめ）
2018年4月	中期活動計画の公表	

なお、7月開催の企画戦略委員会にて審議いただいております。主に下記のような御意見・御提案を頂戴している。

7/12 企画戦略委員会における御意見・御提案内容と対応方針案

1. これまでのやり方だと中期活動計画は 5 年経ってセルフチェックしているが、遅いのではないか。中間の 3 年程度で進捗管理を実施することが望ましい。

(対応方針案)

ステップ③の草案の段階で、進捗管理に関する方法(時期、実施体制等)も記載したい。

2. エコマークは「ちきゅうにやさしい」となっているが、「人間、人にもやさしい」ということもあるのではないか。環境には健康も入ってくる。エコマーク基準にも人の健康の要素も入っていると思うので、エコマークのイメージを「環境+健康」とし、エコマークが付いた商品はすべての人の健康にやさしいとしてはどうか。一歩手前のコミュニケーションとして、環境ばかり言わず、「人の生き方にもやさしい」をもっと訴求し、次期中期活動ではそのような視点を入れてはどうか。

(対応方針案)

本件はエコマークのブランド戦略にも係わるため、消費者や事業者に影響を及ぼす訴求方法などを含め、今後検討をしていきたい。(なお、ホルムアルデヒド、発癌性物質、重金属類などの人体の影響を考慮した有害化学物質などの認定基準を商品分野に応じて設定している。)

3. 他団体との連携については、広がりを持たすことは難しいと実感している。ドラステックに別の方法を考えるべきなのではないか。例えば、第三者が各々の認証を評価するようなこと、CDP のアンケート調査の中に FSC が入っているように、エコマークもチェック項目に入れてもらえれば、企業の意識も変わるのではないか。

(対応方針案)

ステップ③の草案の作成段階で、いろいろな環境の取組等においてエコマークを積極的にアピールする機会を開拓できるように、検討を進めたい。

4. 資金、資源が有限の中で当然全部はできないため、優先順位をつけて少し絞らないといけない。何をしていくかを明確にすべきである。また、マーケティングにおけるブランド力とは、エコマークがついていると認識された時点で、環境性能が優れたものと分かることである。今回の 5 つの柱の役割と目標もそのような視点から検討していく必要がある。

(対応方針案)

ステップ③の草案の段階では、何を目指して実施していくのか目標を明確するような内容としたい。なお、現行の中期活動計画では詳細にアクションアイテムを設定しているが、5年間で社会情勢等も変更していくため、次期中期活動計画では、目指すべき方向と取組のエッセンスを集約して記載し、詳細は年度ごとの事業計画に反映する形としたい。